

だうん とぴっくす



身近なまちの話題や出来事を紹介します

ゲームで楽しむ防災訓練



◀家具転倒防止シミュレーション。
▼ジャッキを使った救助訓練。



10月2日、十神地区防災フェスティバルが同交流センターで開催されました。主催する同地区自主防災委員会は数年前から地区文化祭に合わせて開催し、地域への防災意識向上を図っています。今年は子どもを対象に楽しんで学べる体験型訓練を取り入れました。参加した子どもたちは、毛布で担架を作ったり、道具カードでの災害時のクイズに挑戦したりするなど4つの訓練を体験しました。

十神小4年澤井優奈さんは「楽しかった。災害になれば習ったことを実践したい」と話しました。

総合文化ホール開館前の機運を盛り上げようと企画されたコンサートの出演者が10月6日、赤屋小学校を訪れ「おんかつ」を行いました。この事業は、アーティストが学校などに出かけ、生の音楽を通して地域交流を図るものです。バリトン歌手のヴィタリ・ユシュマノフさんとピアノ奏者の山田剛史さんが、全校児童を前に迫力ある歌を披露。用意された世界地図で場所を紹介してもらいながら世界中の歌を聞き入りました。

6年生の増田麻希さんは「歌だけで感情を表現することができるなんてすごい」と感動した様子で感想を話してくれました。

赤屋小に世界の歌が響く

▶ ヴィタリさんからラップを貼った碗から使った声の振動を教える



▲来場者は、試食をしながらお気に入りの逸品を買って求めています。

安来港に山陰のいいものが集合

地元のとおきのおきの逸品を、地元はもとより県外にも紹介しようと「山陰いいものマルシェ」が9月25日、安来市内で開催されました。中海・宍道湖・大山圏域をはじめ山陰両県から58店舗が出店。心地よい海風が吹く安来港を舞台に多くの人で賑わいました。

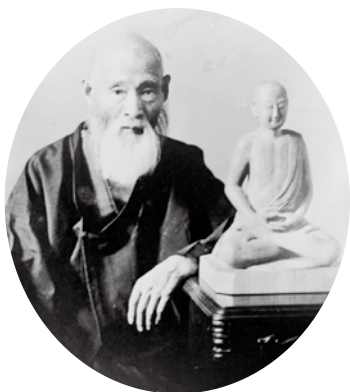
安来市からは13店舗が参加。お客さんとの対話を中心とした販売スタイルで、商品の由来やストーリーなどを積極的に売り込んでいました。また、会場には県内外のスーパーや卸業者などのバイヤーを招き、地元産品の販路拡大を目指しました。



▶井尻八幡宮で作品を観賞する参加者。イベントは10月23日に日野町、11月13日米子市でも開催されます。



山陰のダ・ヴィンチ 「富次精斎」の足跡巡る



富次精斎 (1856～1943)

井尻出身で明治から昭和初期にかけて活躍した宮大工・富次精斎の足跡を巡るイベントが、9月18日に井尻地区で行われました。このイベントは生誕160年を記念して企画され、生誕地の安来市、ゆかりのある日野町・米子市の3地区で作品などを見てまわります。

1856年に井尻で生まれた富次精斎は、高村光雲に師事し、宮大工として山陰を中心に活躍。根雨神社や勝田神社などの寺社建築設計や、荒島の広田亀治像などのすぐれた彫刻を多く残しました。また、製粉機の元祖となった「煙草製造機」や「風車式稲粃機」などの発明も手掛けています。

全3回の内第1回は、井尻八幡宮や井尻天満宮などに初期の作品が残る井尻地区を散策。参加者らは、地区内を歩き、立体的で精緻を極めた精斎作品を熱心に見入っていました。

国際線ファーストクラスの機内食に 西谷産きぬむすめを提供中



▲全日本空輸株式会社ホームページより
トップページ <http://www.ana.co.jp/>
Tastes of JAPAN <https://www.ana.co.jp/tastesofjapan/>

米子鬼太郎空港に就航している全日本空輸（ANA）では現在、島根県内の「食」や「カルチャー」を取り上げた「Tastes of JAPAN by ANA」を展開しています。各地の魅力を全国、また海外の利用者に紹介することで、訪日旅客の増加及び地域活性化に貢献することが目的。期間中は、機内やラウンジサービスなどで島根県産品が取り入れられています。

現在、欧米線などの国際線ファーストクラスの機内食に「安来西谷産きぬむすめ（金芽米）」を提供中。サイトでは「絹のような白さと、甘みがあり艶があるのが特徴です」と紹介され、11月までの3カ月間使用されます。

羽田・成田空港の国際線ラウンジでは、清水羊羹と安来の地酒も期間限定で提供。また、1月までは、国際線全便と国内線奇数便の機内上映番組で、島根の紹介映像が放映される予定です。この動画には、安来節も登場します。

NPO法人やボランティア団体の取り組みを紹介

市内のNPO法人やボランティア団体の活動内容を知ってもらおうと9月18日、広瀬中央交流センターで「第6回ボランティアフェスタ・つな

がろう！ in 広瀬」が開催されました。やすぎボランティア団体ネットワークが主催しているもので、今回初めて広瀬地区が会場となりました。

会場では各団体の活動内容の紹介のほか、個人や団体からの提供品を格安で販売するチャリティーバザーも企画され、多くの人買い求めていました。収益金は日本赤十字社を通じて、今年4月に発生した熊本地震の被災地に送られます。

同ネットワーク代表の板持潤一さんは「市民の皆さんには、活動内容を知ってもらうだけでなく各団体の取り組みを活用してもらえるように促したいです。それぞれにまちづくりや環境保全、子育て、福祉などの得意分野があります。皆さんの役に立つことが、各団体の励みにもなります」と話していました。



- ▲10月3日には、板持会長（右）が日赤島根県支部澤田部長に収益金を渡しました。
- ◀この日のバザーの収益金は総額37,500円になりました。

尾道松江線の開通などにより、広域的な観光ルートづくりを目指している安来市と奥出雲町は、連携した観光地づくりのための研修会を和鋼博物館で開きました。

研修会は、今春認定された日本遺産がテーマで、日本遺産の選定委員をされている日本観光振興協会の丁野朗常務理事が、認定後の活用について講演しました。同氏は他の日本遺産の先進的な取組事例や国の観光政策などを紹介。そして、「この地方には“たたら”に関する魅力的な歴史や文化がある」として、「その地域資源をつなぎ、できるだけ多くの観光ストーリーを提供することが大切だ」と話しました。参加者らはメモを取りながら真剣なまなざしで聞き入っていました。

奥出雲町と連携し、たたらを活用



- ▲観光施設、観光関係者、商工会議所、商工会、議員など両市町から約70人が参加しました。

観光客に安来の魅力を紹介



◀特産の二十世紀梨を買い求める来場者

安来市内には豊かな食や温泉があります。

年間60万人以上の観光客が訪れるさぎの湯温泉地区で9月22日、さぎの湯温泉産直市「田舎のお福分け」が開催されました。会場にはフルーツや加工品などを販売する11業者の出店や温泉入浴券の配布などがあり、知られざる安来の魅力が紹介されました。

市内をはじめ、宿泊者や足立美術館などを訪れた観光客が立ち寄り、田舎ならではの産品を買い求めていました。

主催したさぎの湯温泉の若手グループ「根っこ会」代表の小幡浩三さんは、「市内有数の観光地であるこの場所から、市内の物産や他の観光地の情報を引き続き発信していきたい」と話していました。

